

# 秋田県の一般廃棄物の現状について

(平成22年度実績)

秋田県生活環境部環境整備課

平成24年4月

# 平成22年度一般廃棄物処理事業実態調査結果の概要について

## 【調査の内容】

### 1 調査の目的

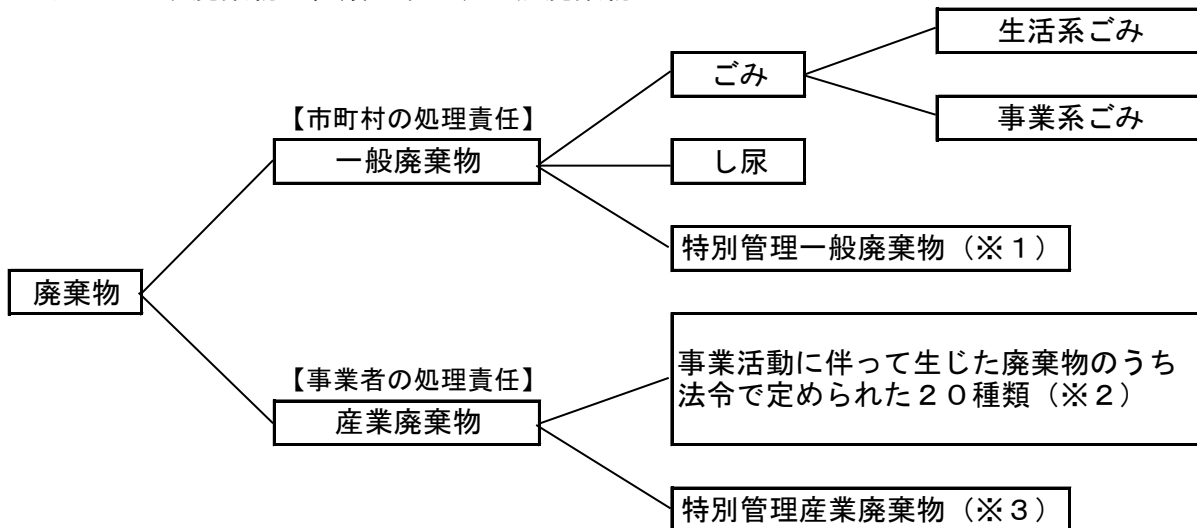
一般廃棄物行政施策の基礎資料とするため、各市町村・事務組合における、ごみ・し尿の排出処理状況、一般廃棄物処理施設の整備状況等について、一般廃棄物処理事業の実態について調査を行った。

### 2 調査対象

県内全ての市町村及び一般廃棄物処理事業を実施している事務組合及び一般廃棄物処理施設

### 3 対象となる廃棄物

以下に示す廃棄物の種類のうち、一般廃棄物



(※1) 有害性、感染性、爆発性があるもの

(※2) 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、鋸さい、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん、処分するために処理したもの

(※3) 爆発性、毒性、感染性等があるもの

廃棄物は、大きく一般廃棄物と産業廃棄物の2つに区分され、事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、法で定められた20種類のものを産業廃棄物といい、一般廃棄物はこれ以外の、主に家庭から排出される生活系ごみとオフィスや飲食店などから発生する事業系ごみ、更にし尿に分類される。

また、これらの廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性、その他の健康や生活環境に被害を生じるおそれのあるものを「特別管理一般廃棄物」「特別管理産業廃棄物」と分類し、収集から処分まで全ての過程において厳重に管理することとされている。

## 【秋田県のごみ処理の概要】

### 1 ごみ排出量

・ ごみ排出量	397 千 t	(前年度	400 千 t)
内訳			
生活系	273 千 t	(前年度	275 千 t)
事業系	119 千 t	(前年度	119 千 t)
集団回収	5 千 t	(前年度	5 千 t)
・ 1人1日当たりの排出量	984 g	(前年度	983 g)
・ 総資源化量	60 千 t	(前年度	64 千 t)
・ リサイクル率	15.7 %	(前年度	17.2 %)

### 2 ごみ処理状況

・ 直接埋立率	1.2 %	(前年度	1.5 %)
・ 直接焼却率	79.5 %	(前年度	82.5 %)
・ 焼却以外の中間処理率	15.0 %	(前年度	10.8 %)
・ 直接資源化率	4.4 %	(前年度	5.2 %)

### 3 最終処分場の状況

・ 最終処分量	36 千 t	(前年度	42 千 t)
・ 残余容量	1,725 千m <sup>3</sup>	(前年度	1,414 千m <sup>3</sup> )
・ 残余年数	33.1 年	(前年度	27.2 年)

※最終処分量とは、直接埋立量＋中間処理（焼却、粗大ごみ処理、資源化等）残渣埋立量である。

※残余年数とは、新しい最終処分場が整備されず、当該年度の最終処分量により埋立が行われた場合に、埋立処分を行える期間（年）であり、「当該年度末の残余容量」÷「当該年度の最終処分量÷埋立ごみ比重」により算出したものである。（埋立ごみ比重は0.8163とし、稼働中の施設を対象とした。）

### 4 ごみ処理事業経費の状況

・ ごみ処理経費	145億6千万 円	(前年度	140億3千万円)
・ 1人当たりの処理事業経費	13,186 円	(前年度	12,594 円)

※処理事業費とは、建設・改良費＋処理及び維持管理費（組合分担金除く）等である。

### 5 県内の公共設置の一般廃棄物処理施設数（稼働中の施設）

・ 焼却施設	17 施設
・ 粗大ごみ処理施設	10 施設
・ 資源化施設（堆肥化施設含む）	14 施設
・ 最終処分量	46 施設

【秋田県のし尿処理の概要】

1 し尿処理の状況

・ 処理量

内訳	くみ取りし尿	247,291 kℓ	(前年度 267,780 kℓ)
	浄化槽汚泥	196,549 kℓ	(前年度 197,808 kℓ)
	収集量合計	443,840 kℓ	(前年度 465,588 kℓ)
・ 自家処理量		0 kℓ	(前年度 0 kℓ)
・ 1日当たりの収集量		1,216 kℓ	(前年度 1,276 kℓ)

2 水洗化率（水洗化人口／処理区域内人口）

		70.4 %	(前年度 69.7 %)
・ 公共下水道水洗化率		45.8 %	(前年度 45.4 %)
・ 浄化槽水洗化率		24.6 %	(前年度 24.4 %)
・ 合併浄化槽水洗化率		16.6 %	(前年度 16.4 %)

3 汚水衛生処理率（公共下水道人口＋合併浄化槽人口／処理区域内人口）

		62.4 %	(前年度 61.8 %)
--	--	--------	--------------

4 し尿処理事業経費（建設・改良費＋処理及び維持管理費（組合分担金除く））

		31 億円	(前年度 32 億円)
--	--	-------	-------------

5 県内のし尿処理施設

19 施設

6 運転管理体制

内訳	直営	13 施設（内一部委託 2施設）
	委託	4 施設

7 処理方式

内訳

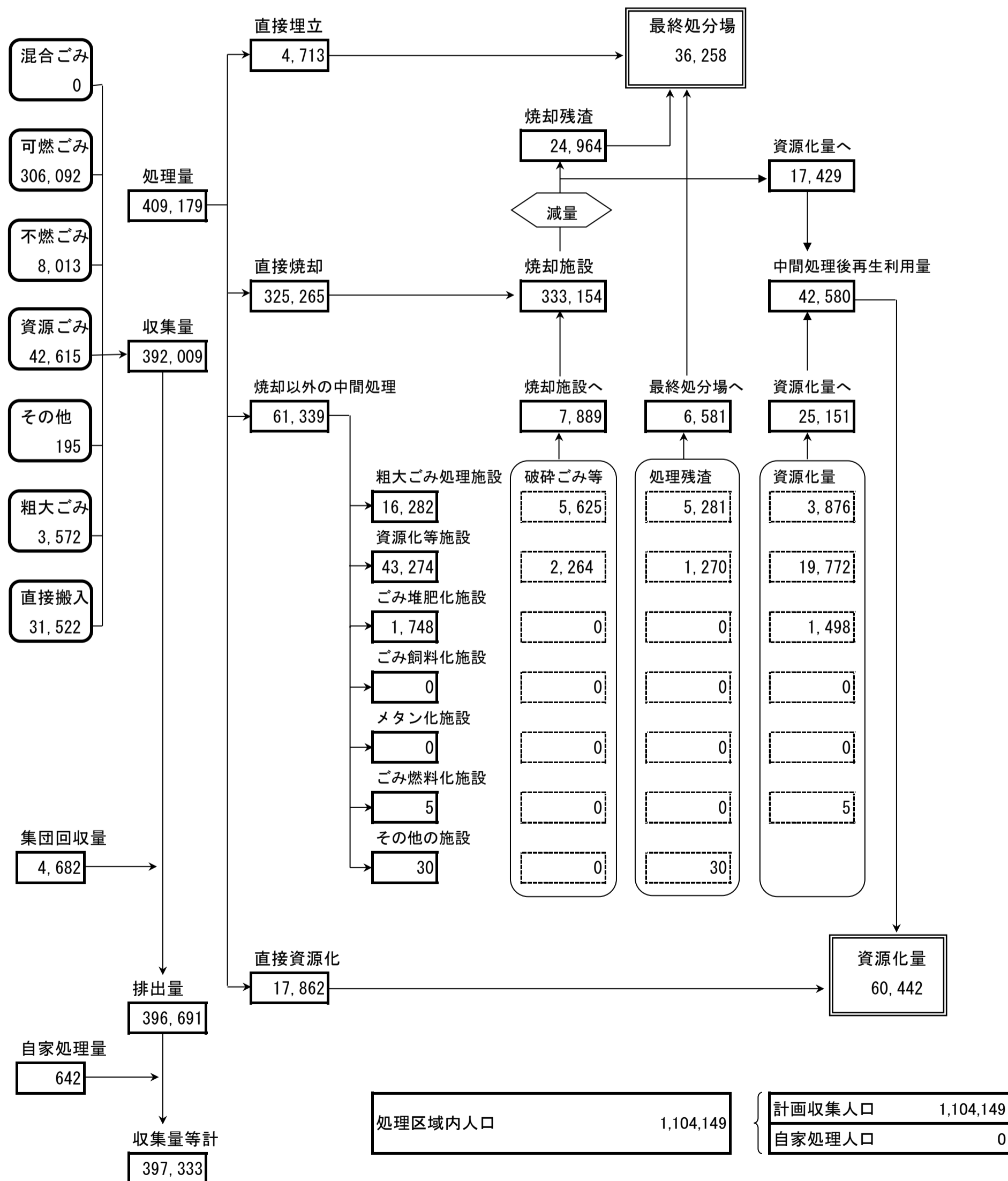
・ 好気性消化・活性汚泥処理方式	2 施設
・ 標準脱窒素処理方式（旧低二段）	5 施設
・ 高負荷脱窒素処理方式	8 施設
・ 高負荷脱窒素処理方式及び膜分離処理方式	4 施設

# I ごみ処理の流れ

平成22年度のごみ総排出量は396,691トン、ごみ総処理量は409,179トンである。

このうち、焼却、破碎・選別等により中間処理された量(中間処理量)は386,604トン、再生業者等へ直接搬入された直接資源化量は17,862トンである。この両者で、ごみの総処理量全体の98.8%(減量処理率)を占める。中間処理後に再生利用された量(中間処理後再生利用量)は42,580トンで、これに直接資源化量を合計した資源化量は60,442トンである。また、焼却施設により減量化された量は290,761トンであり、中間処理されずに直接最終処分された量は、4,713トン(ごみの総処理量の1.2%：直接埋立率)である。

《単位：t/年》



## Ⅱ 一般廃棄物の実態について

### 1 ごみ排出量

ごみの排出量は39.7万トンとなっており、前年度から3千トン減少した。発生源別で見るごみ排出量の割合は、平成22年度で生活系ごみ（集団回収含む）が70%、事業系が30%を占めている。

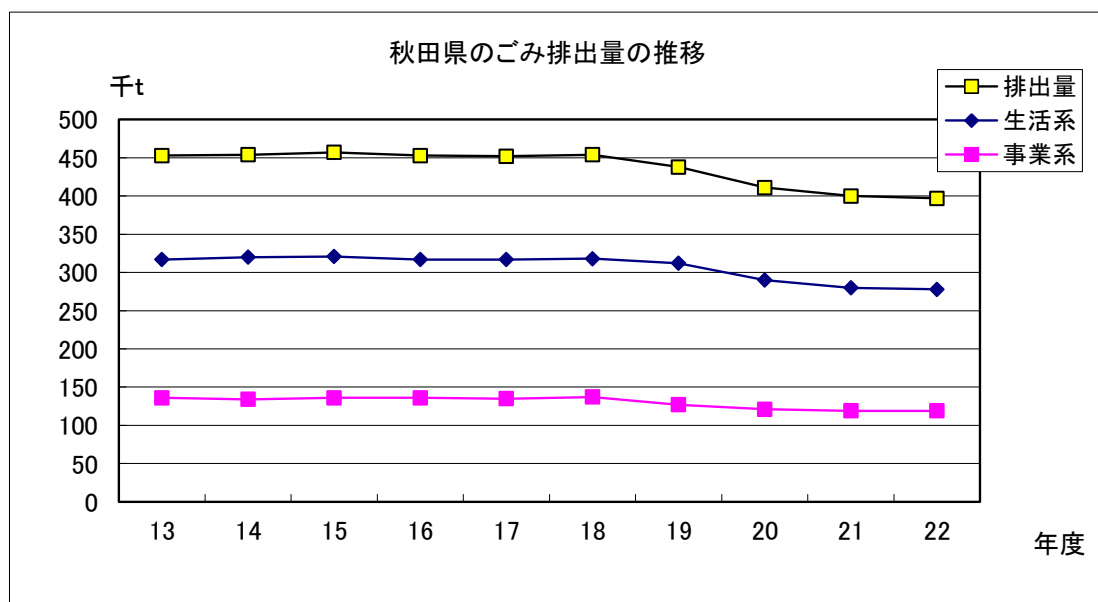
また、種類別で見るごみ排出量では、前年と比べ、わずかに増減があったものの、全ての種類でほぼ横ばいとなっている。

ごみ排出量の推移（表1-1）

単位：千t／年

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
生活系	317	320	321	317	317	318	312	290	280	278
事業系	136	134	136	136	135	137	127	121	119	119
排出量	453	454	457	453	452	454	438	411	400	397

（図1-1）

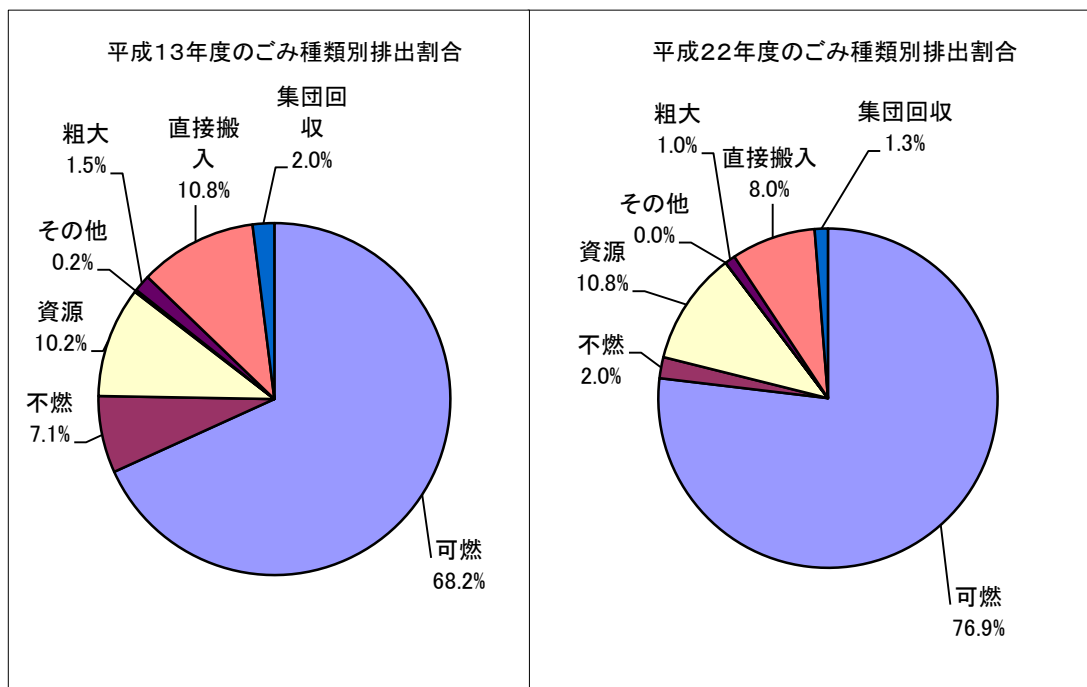


種類別排出量の推移（表 1 - 2）

単位：千 t / 年

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
可燃	309	333	337	329	333	337	328	314	307	306
不燃	32	21	19	20	16	12	14	9	9	8
資源	46	48	48	50	50	52	50	48	44	43
その他	1	1	1	1	2	1	1	1	1	0
粗大	7	7	8	8	6	5	4	4	4	4
直接搬入	49	37	37	37	39	40	35	31	31	32
集団回収	9	8	8	7	7	7	6	5	5	5
合計	453	454	457	453	452	454	438	411	400	397

（図 1 - 2）



## 2 県民1人1日当たりのごみ排出量

県民1人1日当たりのごみ排出量は、前年度から1グラム増加し、全国平均を8グラム上回ったが、この10年間を見ると横ばいの傾向にある。

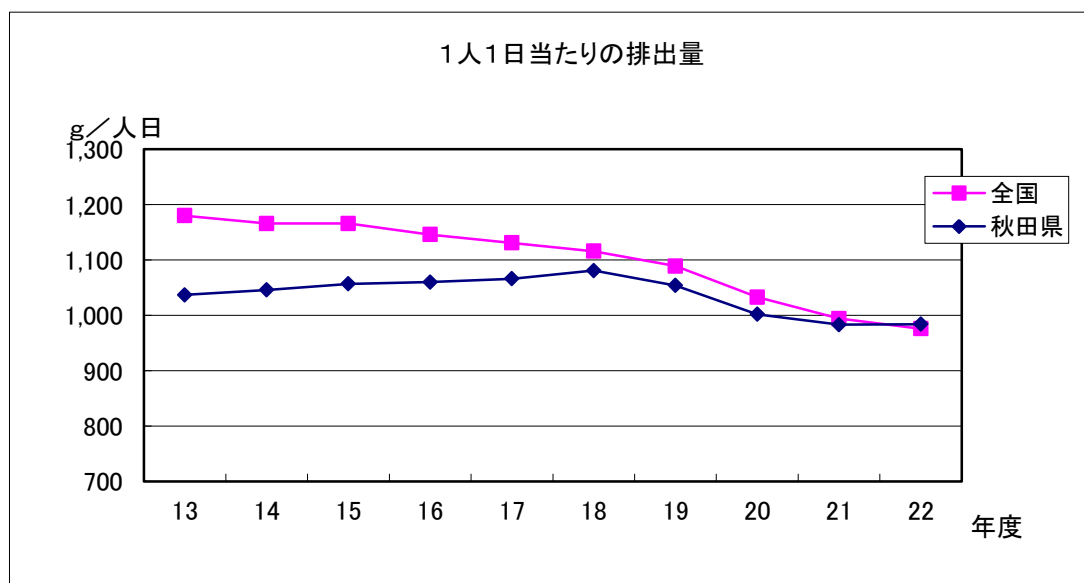
なお、平成23年4月に策定した第2次秋田県循環型社会形成推進基本計画では、1人1日当たりのごみ排出量を、平成27年度には870グラムにする目標を掲げている。

1人1日当たりの排出量の推移（表2）

単位：g／人日

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
秋田県	1,037	1,046	1,057	1,060	1,066	1,081	1,054	1,002	983	<b>984</b>
全国	1,180	1,166	1,166	1,146	1,131	1,116	1,089	1,033	994	<b>976</b>

（図2）





### 3 処理別ごみ処理の状況

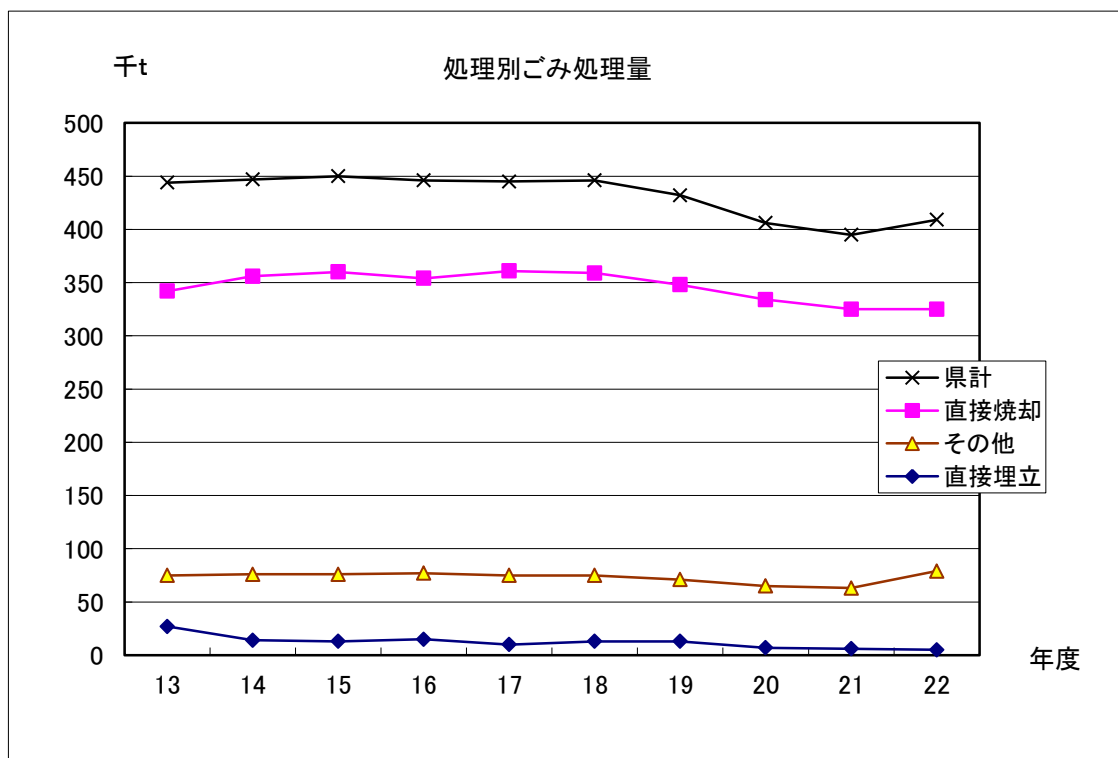
最終処分場に直接埋め立てられる量は、平成20年度以降減少傾向にある。直接焼却量はほぼ横ばいで推移しているが、直接焼却以外の中間処理（粗大ごみ処理施設、資源化等を行う施設等）量は増加に転じた。

処理別ごみ処理量の推移（表3）

単位：千t／年

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
直接埋立	27	14	13	15	10	13	13	7	6	5
直接焼却	342	356	360	354	361	359	348	334	325	325
その他	75	76	76	77	75	75	71	65	63	79
県計	444	447	450	446	445	446	432	406	395	409

（図3）



#### 4 埋立処理量及び埋立処分場の残余容量等

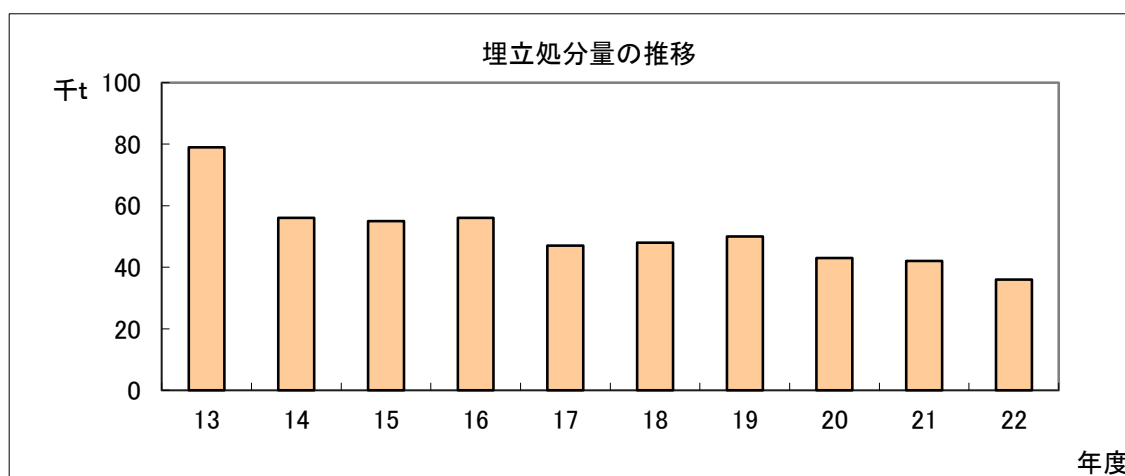
埋立処分されるごみの量は、減少傾向にあったが、ここ数年横ばいとなっている。  
残余年数は、平成21年度末現在で27.2年となっている。

埋立処分場の残余容量・年数の推移（表4）

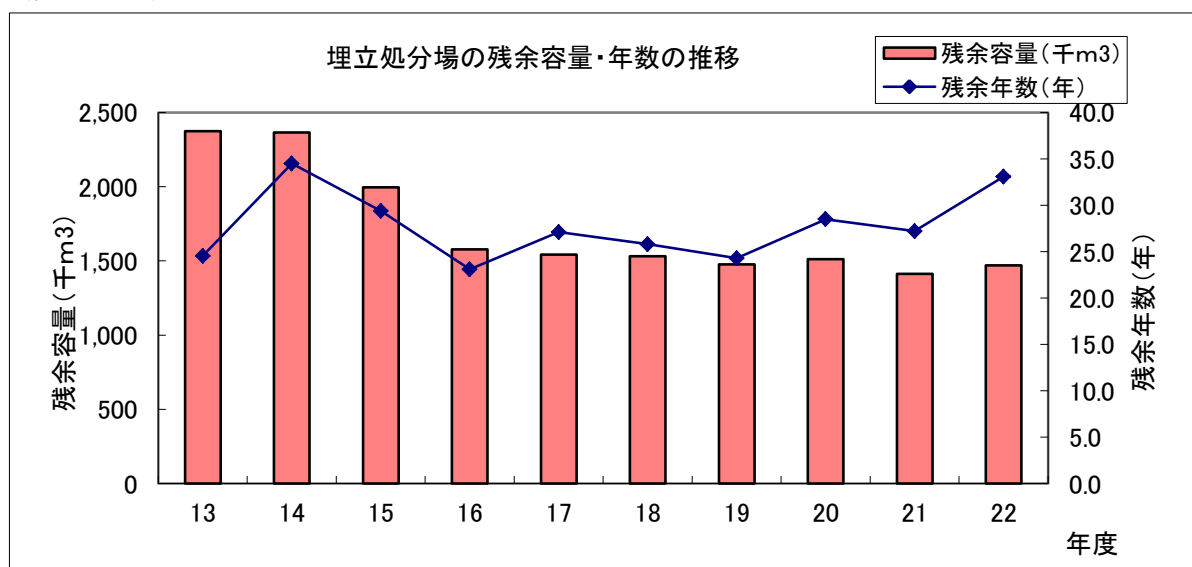
年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
埋立処分量（千t） （直接埋立量＋ 中間処理残渣埋立量）	79	56	55	56	47	48	50	43	42	36
残余容量（千m <sup>3</sup> ）	2,374	2,366	1,995	1,578	1,543	1,532	1,477	1,513	1,414	1470
残余年数（年）	24.5	34.5	29.4	23.1	27.1	25.8	24.3	28.5	27.2	33.1

※残余容量及び残余年数は、稼働中の施設を対象に算出。

（図4-1）



（図4-2）



## 5 リサイクル率の推移及び目標値

ごみのリサイクル率については、前年度に比べ1.5ポイント減少し、全国平均を5.1ポイント下回った。

なお、平成23年4月に策定した第2次秋田県循環型社会形成推進基本計画では、リサイクル率を平成27年度には24.1%にする目標を掲げている。

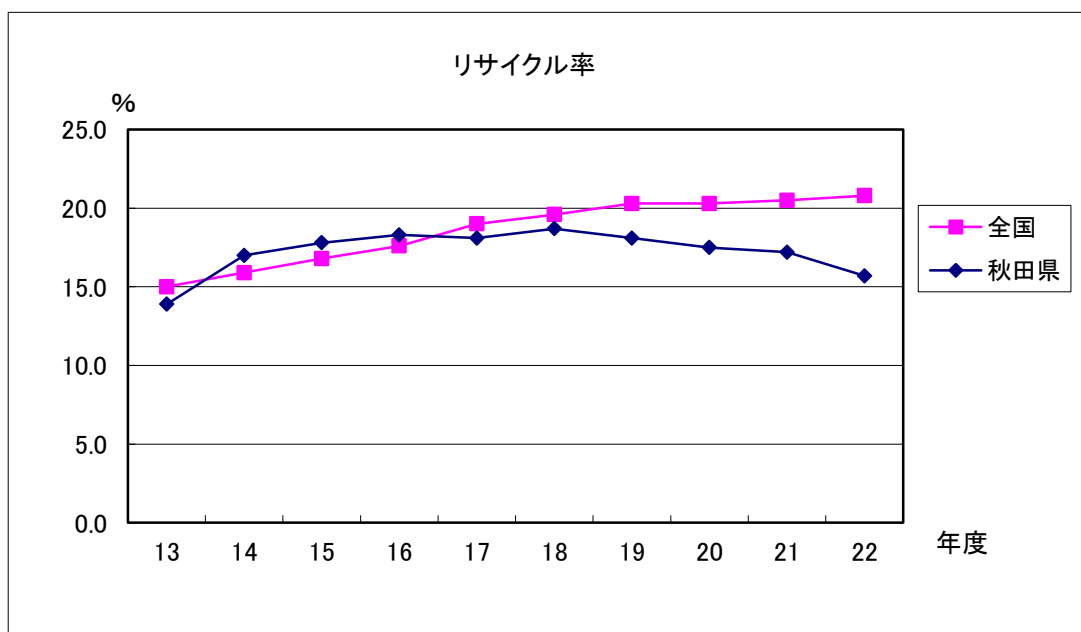
リサイクル率の推移（表5）

単位：%

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
秋田県	13.9	17.0	17.8	18.3	18.1	18.7	18.1	17.5	17.2	15.7
全国	15.0	15.9	16.8	17.6	19.0	19.6	20.3	20.3	20.5	20.8

※リサイクル率（%）＝（直接資源化量＋中間処理後の再生利用量＋集団回収量）  
 ÷（ごみの総処理量＋集団回収量）

（図5）



## 6 し尿処理の状況

し尿収集量は44.4万トンとなっており、前年度から2.2千klの減少となった。

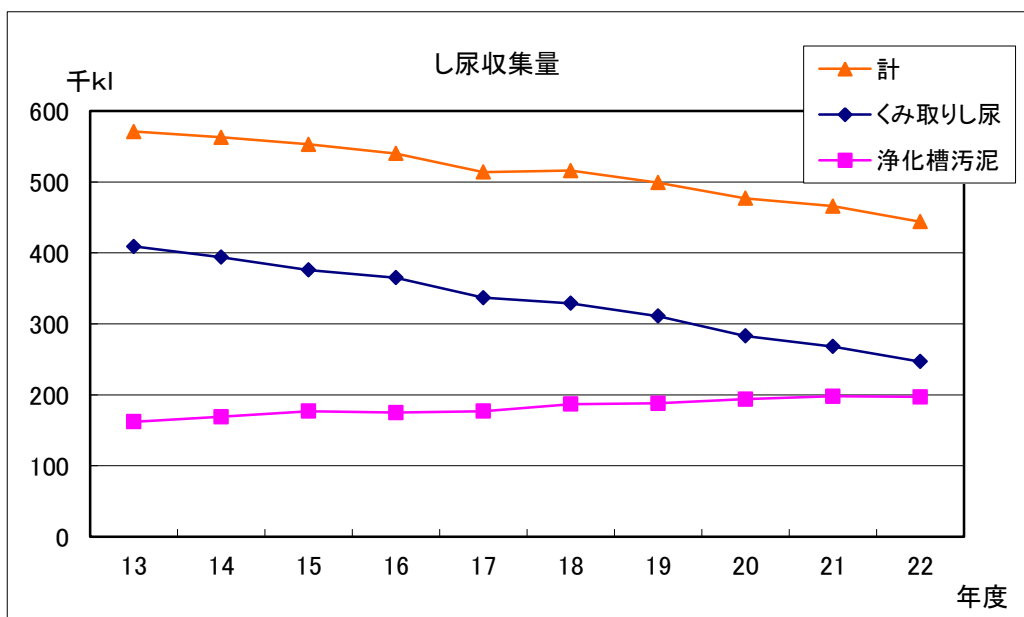
下水道や浄化槽の普及により、くみ取りし尿の量は減少し、浄化槽汚泥の量は増加した。

し尿収集量の推移（表6）

単位：千kl

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
くみ取りし尿	409	394	376	365	337	329	311	283	268	247
浄化槽汚泥	162	169	177	175	177	187	188	194	198	197
計	571	563	553	540	514	516	499	477	466	444

（図6）



## 7 水洗化の状況

水洗化率については70.4%となっており、前年度を0.7ポイント上回った。

水洗化率の推移（表7）

単位：%

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
秋田県	54.2	57.1	59.1	62.9	65.1	67.5	68.4	69.8	69.7	70.4
全国	84.7	86.0	87.1	88.1	88.9	89.7	90.3	90.7	91.5	92.1

※水洗化率（%）＝水洗化人口÷処理区域内の人口

（図7）

